



JTRUST

2019年3月期

決算説明資料

2019年5月

Jトラスト株式会社



- 1. 2019年3月期 業績総括及び今後の施策**
- 2. 2019年3月期 連結決算概要**
- 3. セグメント別業績**
- 4. 2019年12月期 連結業績予想**

- 2018年3月期より国際財務報告基準（IFRS）を採用しています。
- 2019年3月期に売却を決議したハイライツ・エンタテインメント社の業績を非継続事業として分類しており、前年同期の「営業収益」「営業利益」及び「税前利益」も同様に分類して表示しております。
- 本資料に記載された将来情報などは資料作成時点での当社の認識、意見、判断又は予測であり、その実現を保証するものではありません。様々な要因により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。
- 説明会および本資料は、当社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、当社又は子会社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。
- 各ページに記載の数値は、原則として表示単位未満を切捨て表示しています。また表およびグラフ横に記載しております差異ならびに前年同期比等は、表示の億単位を用いて計算しております。

1. 業績総括及び今後の施策

代表取締役社長
藤澤 信義

➤ 2019年3月期業績及び2019年12月期予想

- ✓ 2019年3月期は、来期以降の業績回復を見据え、不良債権を処理
 - I. Jトラスト銀行インドネシアにおいて不良債権を処理 東南アジア金融事業で貸倒引当金130億円繰入
 - II. GL社に対する債権に対して一括して貸倒引当金201億円繰入
- ✓ 海外事業会社の増加に伴い、決算期を3月から12月へ変更

	2019年3月期 (12ヵ月)		2019年12月期 (9ヵ月)
	営業収益	営業利益	営業利益 (予想)
日本金融事業	105億円	42億円	29億円
韓国及びモンゴル金融事業	395億円	48億円	33億円
東南アジア金融事業	130億円	-177億円	-17億円
投資事業	10億円	-205億円	-6億円
総合エンターテインメント事業	15億円	-0億円	3億円
不動産事業	64億円	1億円	0億円
その他事業/調整額等	28億円	-35億円	-42億円
連結業績	749億円	-326億円	0億円

➤ 東南アジア金融事業：BJIの問題点を明確にし、再建に取り組む

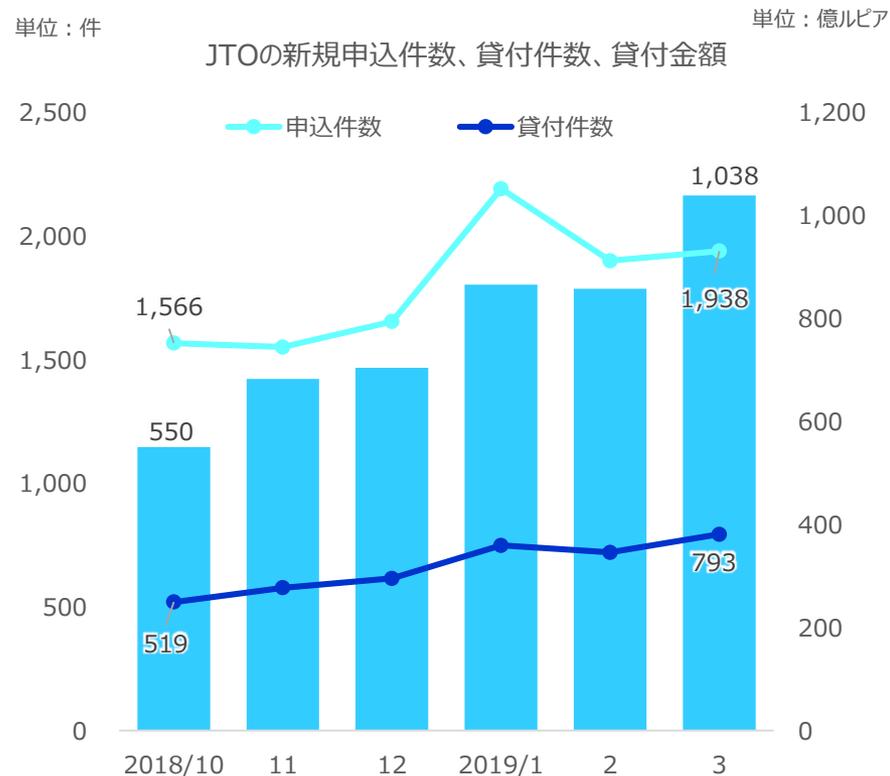
- ✓ 韓国の潰れた銀行を再生させたグループの精鋭メンバーをインドネシアへ派遣
 - ・ 韓国事業を本格化した2012年の事業開始以降、投融資残高が約12倍に
 - ・ 年間を通して投融資実行を行った2014年以降、投融資実行額（年間）が約20倍に
- ✓ JTOを主軸に良質な債権を積上げ、デフォルトを抑制

JTOの半年間の実績

- ・ 貸付残高（JTO + BJI）は6か月間で6%増加
- ・ NPLは6か月間で1.99%から過去最低水準の1.58%（グロス/業界平均は2.7%）にまで圧縮
- ・ Activeディーラー数は118社から231社へ増加（96%増）
- ・ 農機具ディーラー数は30社から47社へ増加（57%増）
- ・ 新規の申込件数、貸付件数、貸付金額はそれぞれ60%、95%、100%増加（貸付金額は2倍に）
- ・ 貸倒償却費は54%に減少

インドネシア 今後の対策

- ・ リスクマネジメントの強化（審査/回収部門）
- ・ 自動車、農機など、担保価値があり、換価性の高い動産担保ローン債権の積み上げ
 - ディーラーネットワークの拡大とジョイントファイナンスを中心とした貸付
- ・ 大手財閥、銀行、日系、韓国系企業など、信頼性の高い企業への貸付
- ・ 高格付企業へのコーポレート債券投資の運用
- ・ BJIの支店をJTOとの合同店舗とし、顧客基盤のシェアによる生産性向上



➤ 東南アジア金融事業：ANZ Royal Bankの進捗

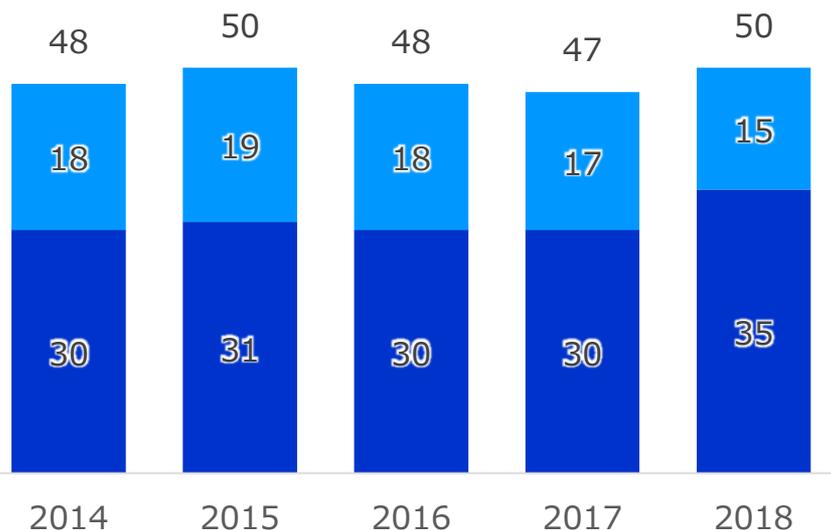
- ✓ ANZ Royal Bankの2018年12月期は、安定した利益計上を実現
- ✓ グループ入りの準備を引き続き進行させる

ANZ ROYAL Bank 財務ハイライト

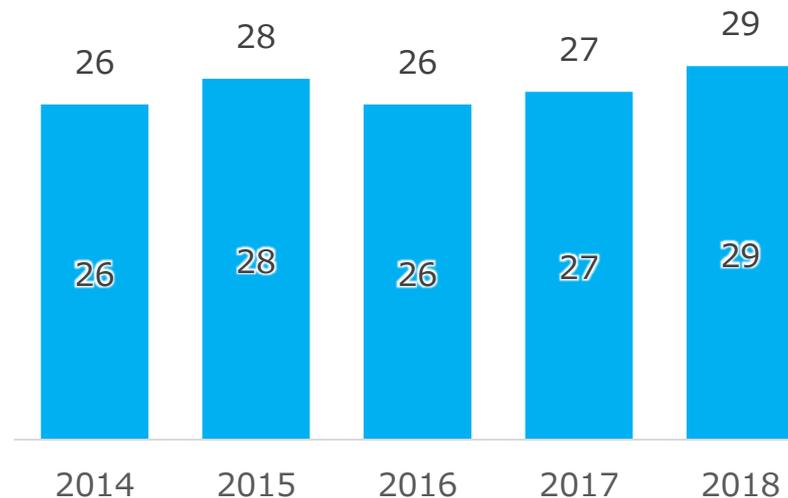
単位：百万USD

営業収益

■ 純金利収入 ■ その他の収益



営業利益



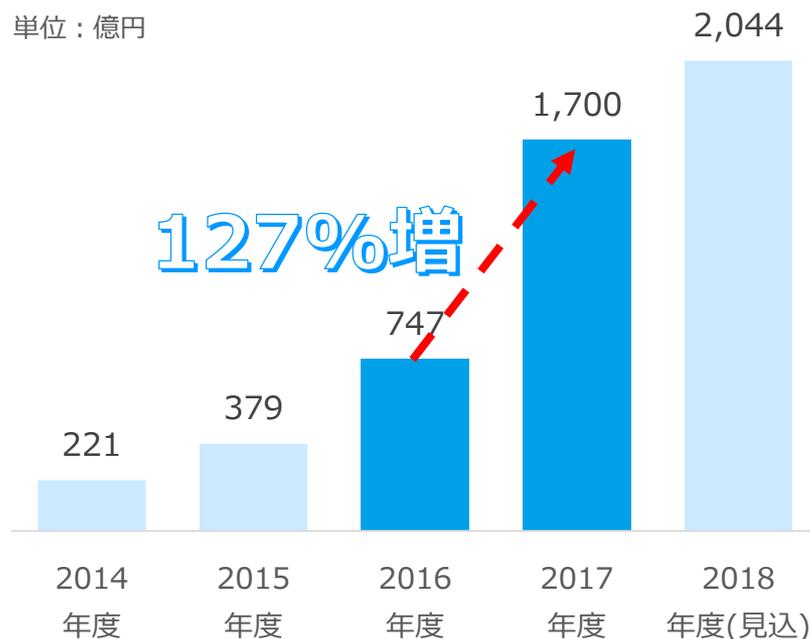
※ データはアニュアルレポートより

日本金融事業：新たな保証商品の開発と、サービス事業の安定成長がカギ

- ✓ サムライ & Jパートナーズとの協業により、新たな保証商品をリリース（日本保証）
 - I. 多彩な債権の保証ノウハウを活用した商品で、ソーシャルレンディング事業者との提携を拡大
 - II. 地域銀行など、調達サイド・投資家サイド・我々共にWin-Winに

国内クラウドファンディングの市場規模

単位：億円



SAMURAIの概況

- 2018年募集ファンド数: 43本
- 2018年累計応募金額: 約6.5億円
- 2018年募集目標利回り: 5~10%
- 貸付型商品のデフォルト率: 0%
- 最低投資額: 1万円~
- 運用期間: [不明]

商品ラインナップ (2018年一部抜粋)

- SAF不動産ローンファンド11号 (貸付先R社、K社)
- 日利回り1.5%の不動産ファンド

日本保証

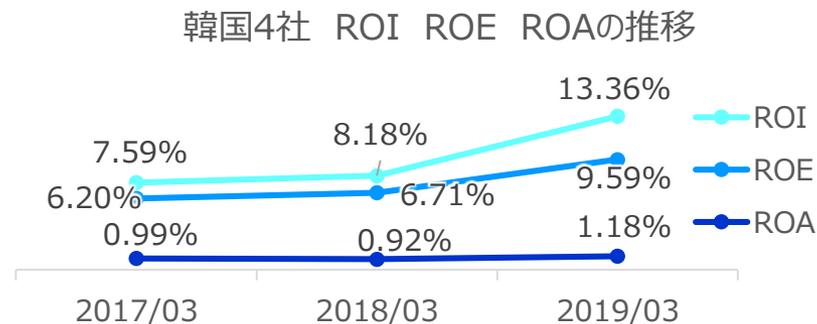
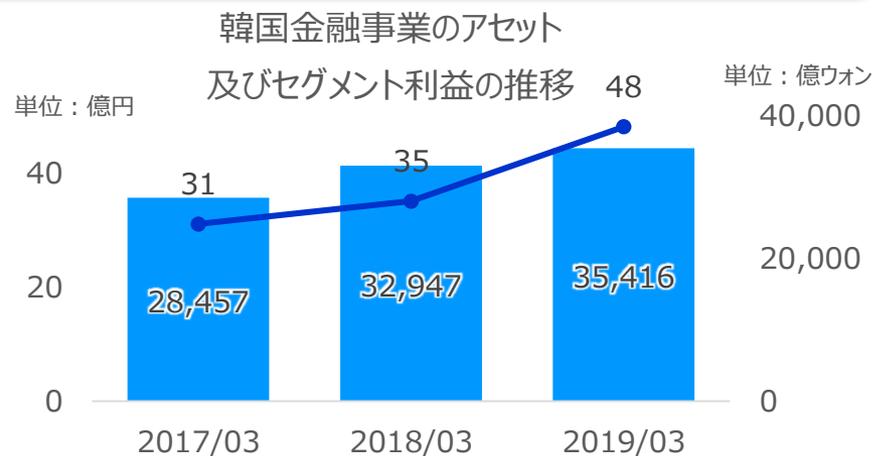
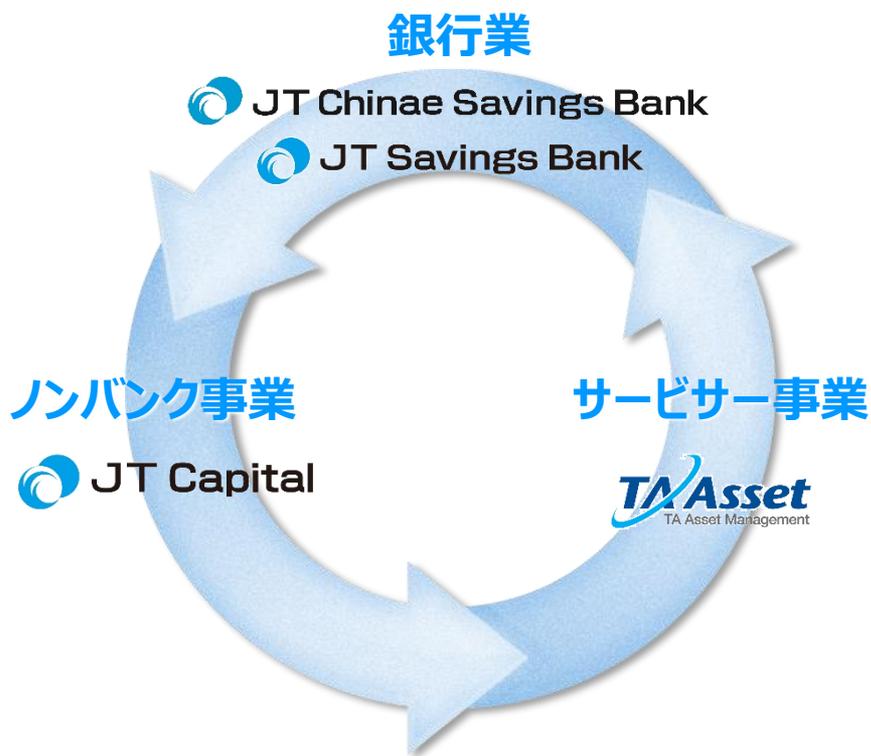
SAF日本保証不動産ローンファンド

目標利回り：年5% (概引額)

SAMURAI証券

➤ 韓国及びモンゴル金融事業：金融規制の変更にも柔軟に対し、利益確保につなげる

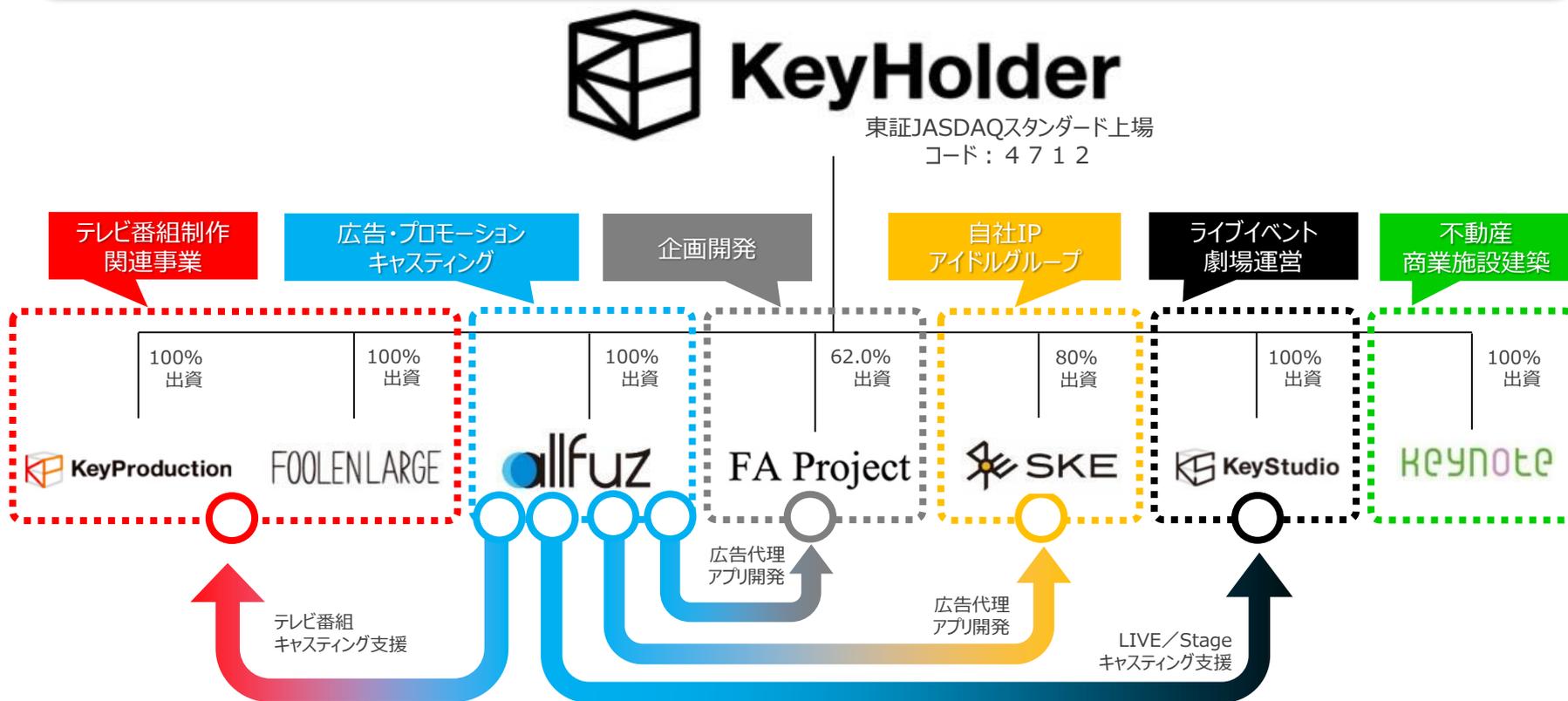
✓ アセットは「量」より「質」を重視、バランスの取れたリスクリターンを目標とする



右グラフにおけるセグメント利益は韓国金融事業のセグメント利益を掲載しております。
アセットは銀行2行とJTキャピタルの3社合計数値を掲載しております。

➤ 総合エンターテインメント事業 / 不動産事業

- ✓ M&Aにより、KeyHolderグループは、劇場・マネジメント・テレビ・プランニングなど、多彩な機能を持ち合わせた総合エンターテインメント企画集団に
- ✓ キーノートは、商業施設建築が好調



2. 連結決算概要

取締役 執行役員
経営企画部部長 広報・IR部門担当
山中 威人

➤ 前期比は増収減益

連結業績（前年同期比）

	FY03/2018	FY03/2019	差異
営業収益 [※]	743億円	749億円	+6億円
営業利益 [※]	47億円	-326億円	-373億円
税前利益 [※]	28億円	-311億円	-339億円
親会社の所有者に 帰属する当期利益	-7億円	-361億円	-354億円

※ 営業収益・営業利益・税前利益には非継続事業を差し引いた継続事業から生じた金額を表示しています。

➤ 日本、韓国及びモンゴル金融事業は増収 東南アジア/投資事業は減収

セグメント別営業収益（前年同期比）

	FY03/2018	FY03/2019	差異
日本金融事業	90億円	105億円	+15億円
韓国及びモンゴル金融事業	358億円	395億円	+37億円
東南アジア金融事業	135億円	130億円	-5億円
投資事業	72億円	10億円	-62億円
非金融事業	69億円	79億円	+10億円
その他の事業	16億円	28億円	+12億円
連結営業収益	743億円	749億円	+6億円

➤ 東南アジア金融事業：不良債権の処理 投資事業：貸倒引当金の繰入により
大幅減益

セグメント別営業利益（前年同期比）

	FY03/2018	FY03/2019	差異
日本金融事業	41億円	42億円	+1億円
韓国及びモンゴル金融事業	35億円	48億円	+13億円
東南アジア金融事業	15億円	-177億円	-192億円
投資事業	-28億円	-205億円	-177億円
非金融事業	6億円	0億円	-6億円
その他の事業	0億円	0億円	-0億円
（調整額等）	-23億円	-34億円	-11億円
連結営業利益	47億円	-326億円	-373億円

3. セグメント別業績

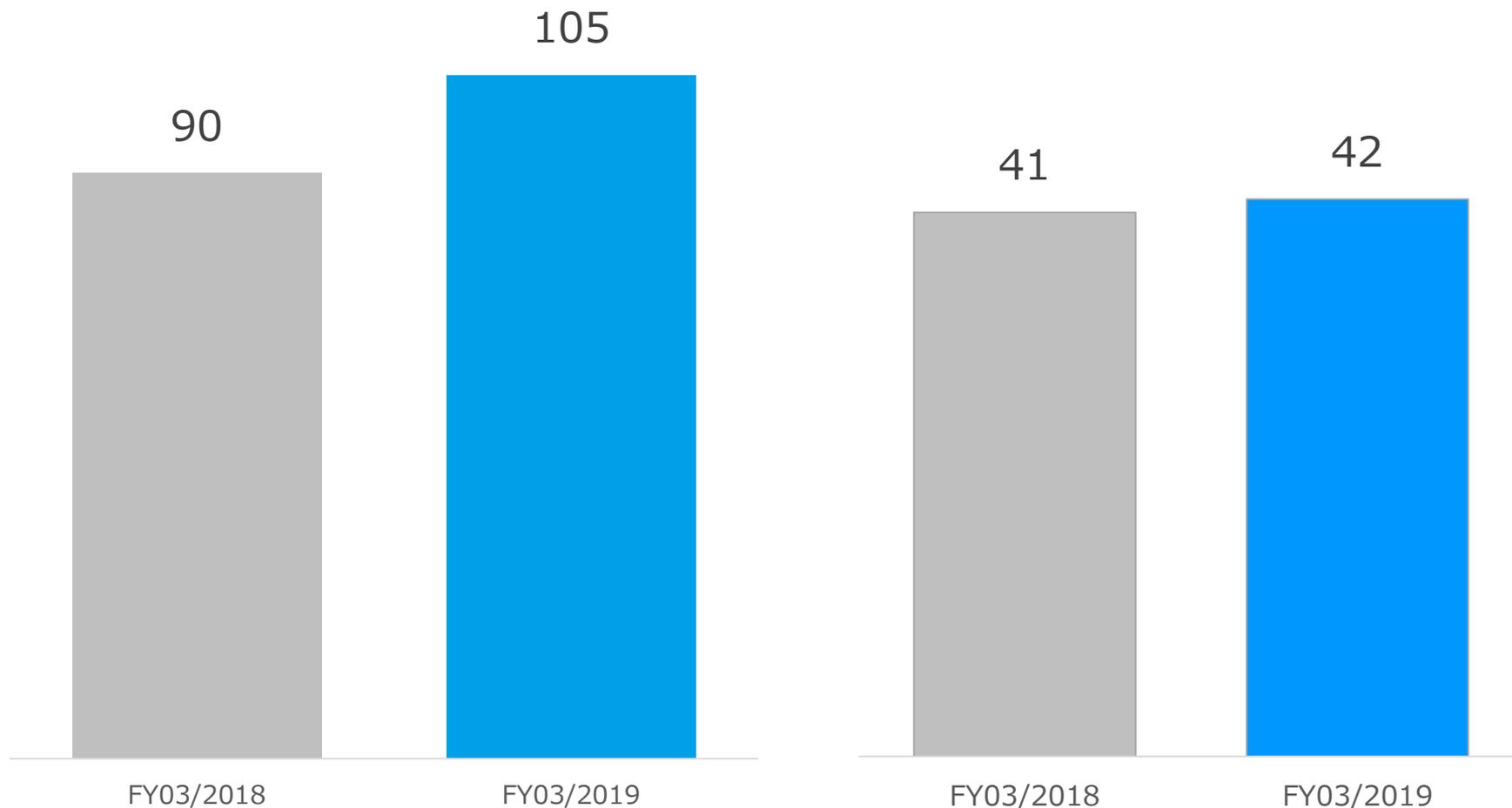
3-1. 日本金融事業

➤ 利息収益の減少を保証料収入の増加でカバーし安定した利益を創出

営業収益

営業利益

単位：億円



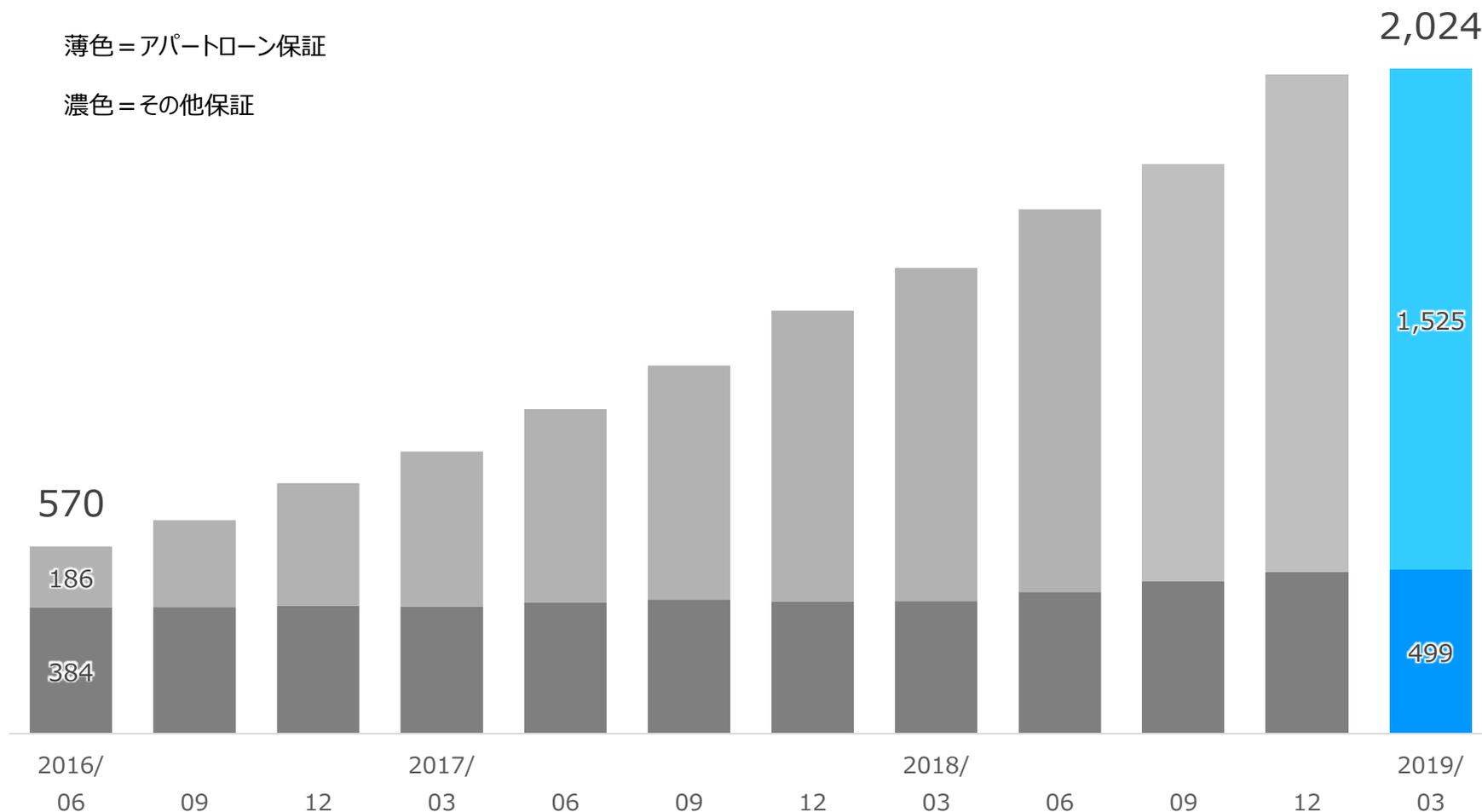
➤ 今後は保証商品の多角化を進める

単位：億円

保証残高の推移

薄色 = アパートローン保証

濃色 = その他保証



➤ 保証商品の多角化を進める

- ✓ 新たな保証商品への転換
(海外不動産担保ローン、リバースモーゲージなど)
- ✓ 集客サイトを構築 お客様に合った商品プランを提供
(おかねの窓口) <https://madoguchi.jp-g.co.jp/>

NEW 海外不動産担保ローン

国内レート 金利年2.80%

IN HAWAII

所有しているハワイの不動産を担保に2棟目、3棟目を購入

おかねの窓口

HOME リバースモーゲージとは? リースバックとは? 得意分野一覧 よくある質問

最適診断

あなたに最適なローンタイプを5分で診断!

診断してみる

お金の貯蓄 介護 医療 リフォーム 法律 住宅ローン・借入費

SAMURAI PARTNERS

金融 × 目の未来

SAMURAIの状況

2018年営業ファンド数	43+
2018年累計応募金額	約6.5億円
2018年営業目標達成率	5~10%
貸付型商品のフォルト率	0%
最低投資額	1万円~
運用期間	約1.5ヶ月~3ヶ月

商品ラインナップ (2018年一部抜粋)

SAP不動産コーポレート110 (運用期間: 6ヶ月)

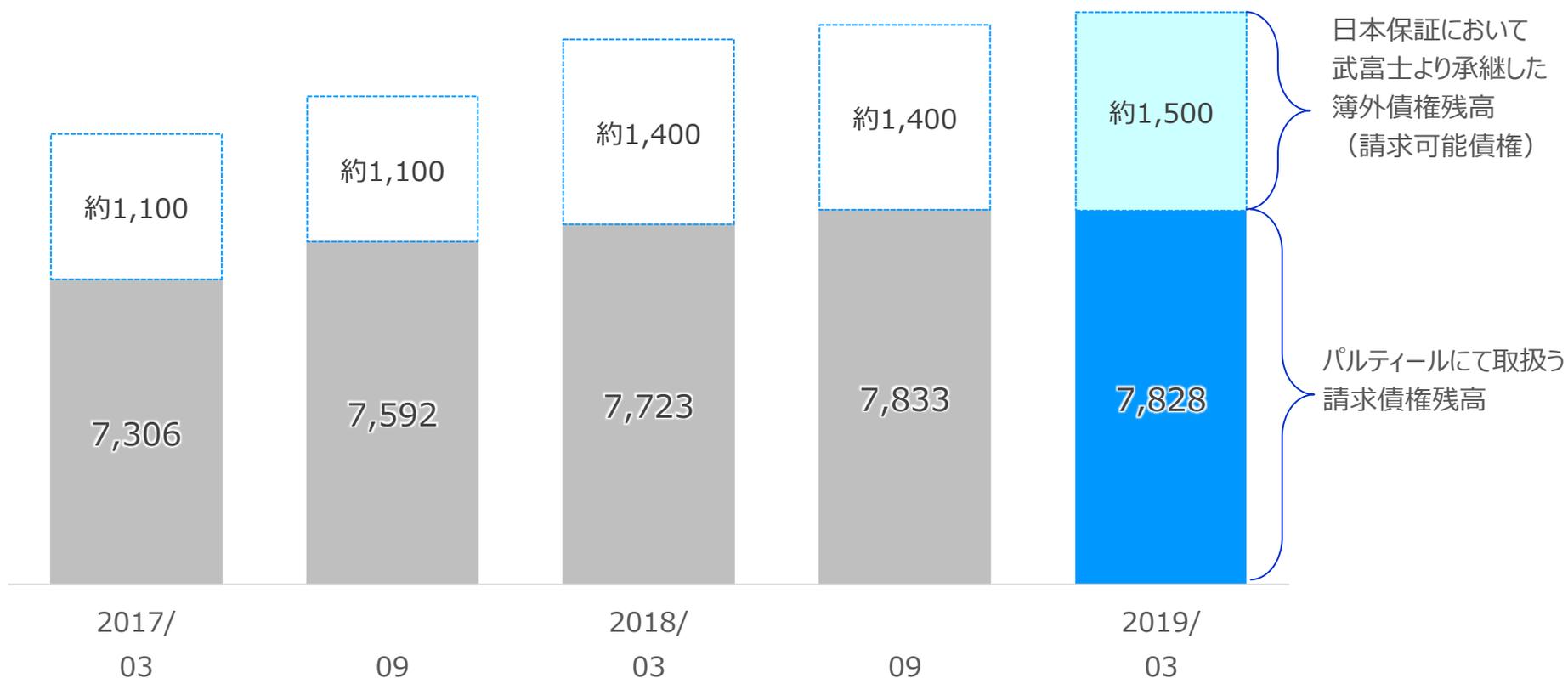
SAP不動産コーポレート100 (運用期間: 7ヶ月)

➤ 不良債権の買取は引き続き好調

単位：億円

サービサー事業における請求債権残高

合計
9,000億円超



請求債権残高は買取債権および回収受託債権を含む
請求債権残高に一部オンバランス債権を含む

3. セグメント別業績

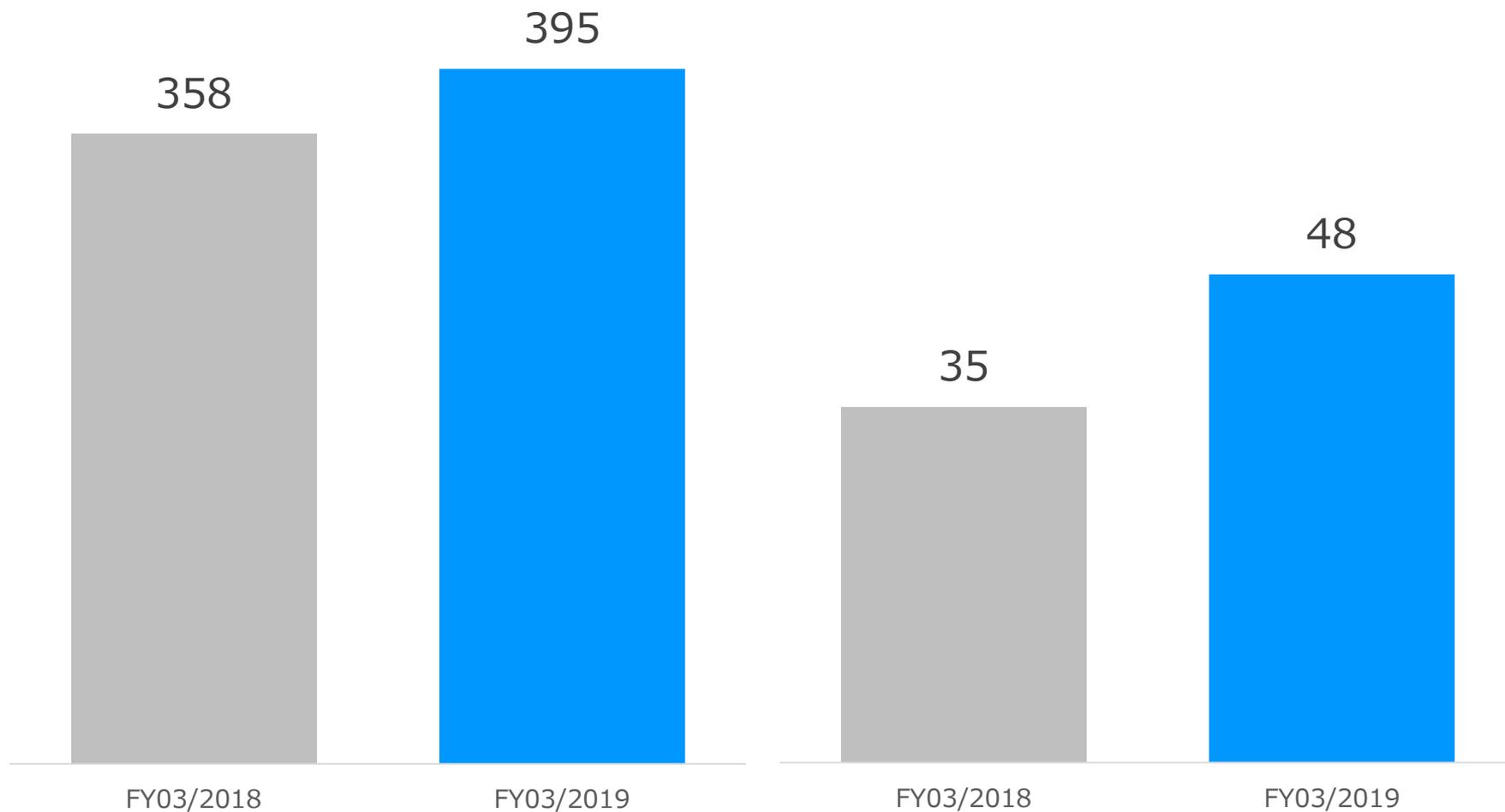
3-2. 韓国及びモンゴル金融事業

➤ 貯蓄銀行業をはじめとした利息収入が順調に増加

営業収益

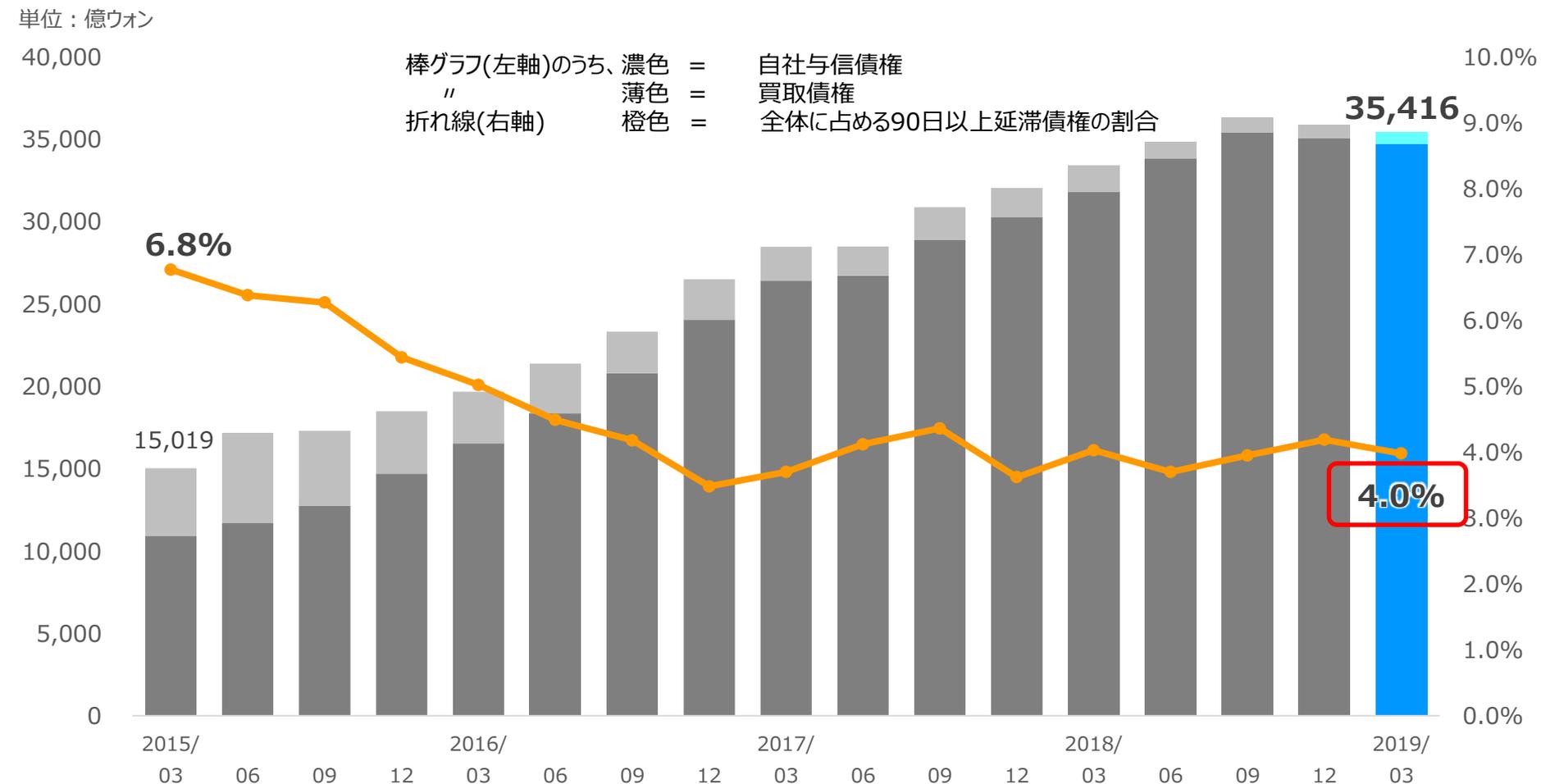
営業利益

単位：億円



➤ 戦略的なポートフォリオの入れ替えを実施

貯蓄銀行及びキャピタルの貸出資産残高と90日以上延滞債権の推移



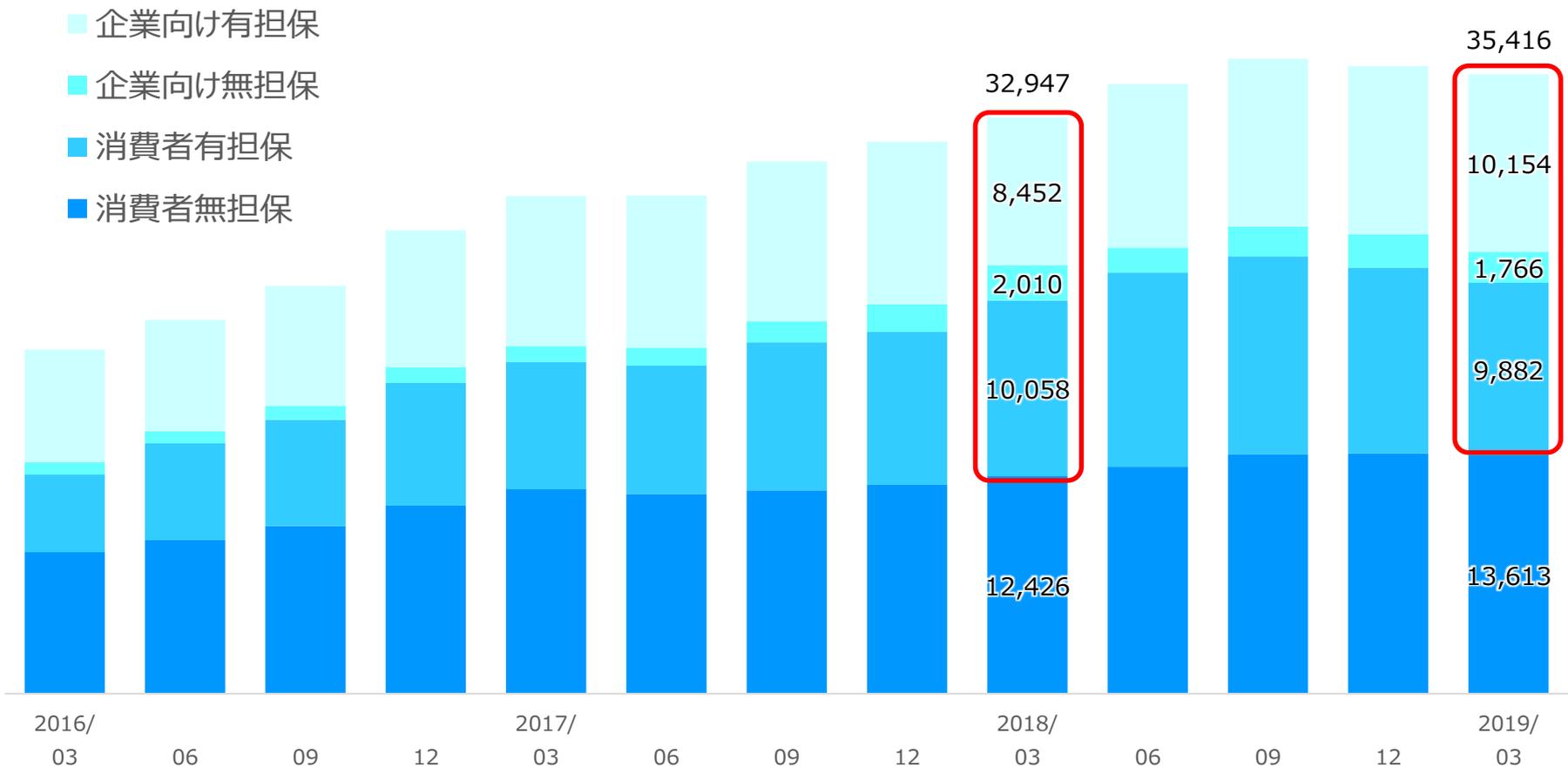
※グラフ数値は現地基準

参考レート：1ウォン=0.098円（3月末日の決算日レート）

➤ 債権の「質」を重視しつつ、安定した貸出を指向

貸出資産ポートフォリオ（K-GAAP基準）

単位：億ウォン

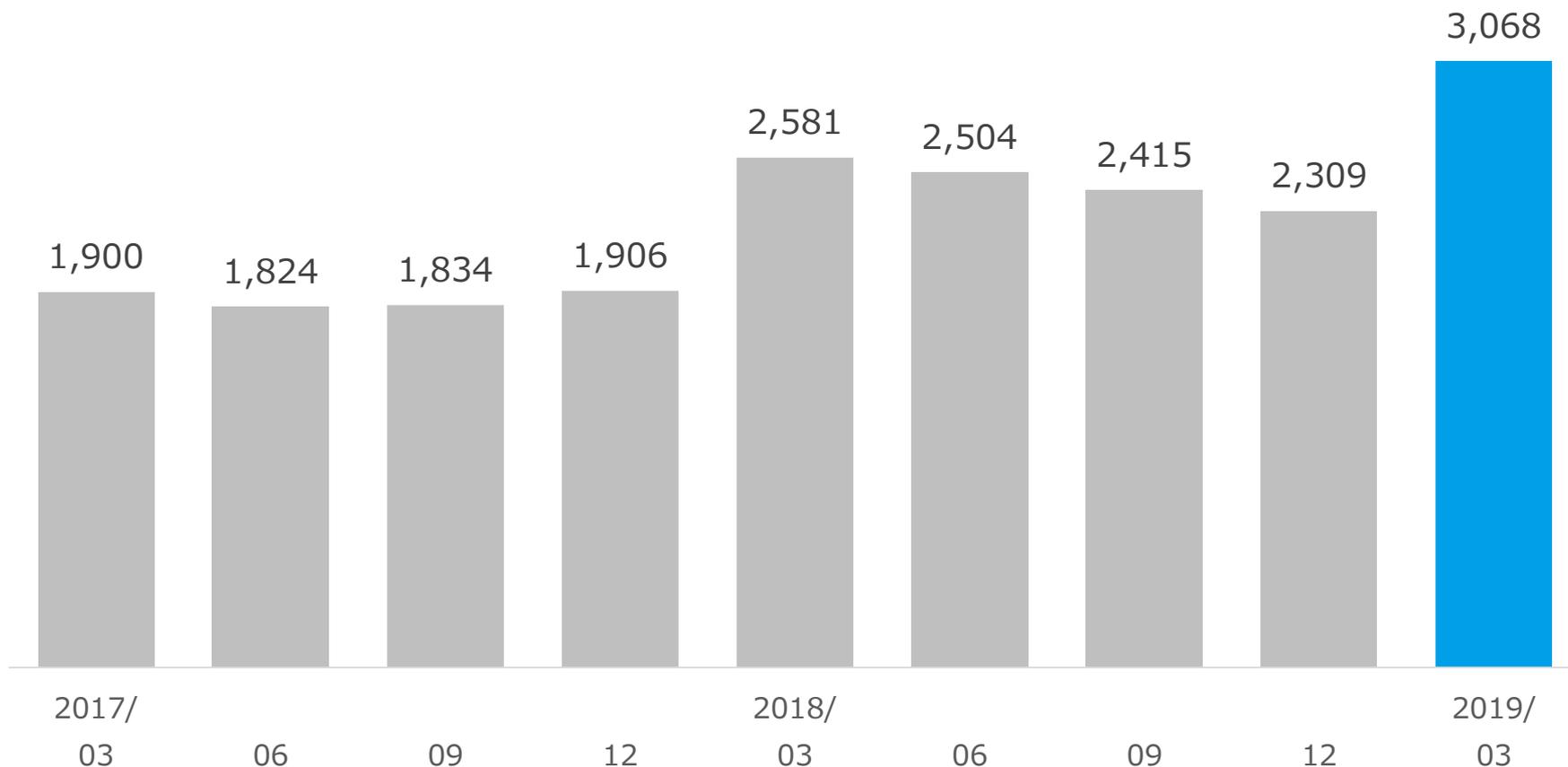


※JT親愛貯蓄銀行 JT貯蓄銀行 JTキャピタル3社合計
参考レート：1ウォン=0.098円（3月末日の決算日レート）

➤ サービスにおける不良債権買取も順調

TAアセットの請求債権残高

単位：億ウォン



➤ 高い回収力を背景に事業を推進

TAアセット 3カ年の推移

単位：億円

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
総資産	110	115	97
自己資本	112	114	88
営業利益	13	4	8
純利益	9	2	9
ROA	8.97%	2.35%	9.81%
ROE	8.86%	2.37%	10.87%
IRR	44.0%	53.4%	42.8%

➤ 戦略は、「量」から「質」を意識し、バランスのとれた営業資産の積上げ

- ✓ ビッグデータを使った審査システムを導入し、より高度な与信を提供
- ✓ 質の高い顧客層を取り込むためのマーケティング活動やブランド戦略を実施

クレジットスコアシステムに
マシーンラーニング機能を追加

モバイルWEB チャット
ボット相談ボタン

質の高い顧客獲得のための
マーケティング活動を実施

お客様の情報

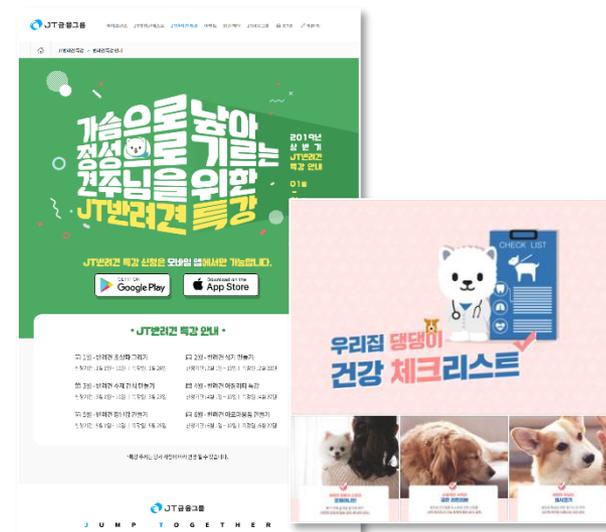
借入額
延滞履歴
属性
返済能力
+

取引情報以外
の情報
不動産市況
業種別市況
など



より高度な
与信を提供

Fintechの活用により
より精緻なスコアリング（審査）が可能に



ペットを飼う富裕層に向けたイベント
などを実施し集客

3. セグメント別業績

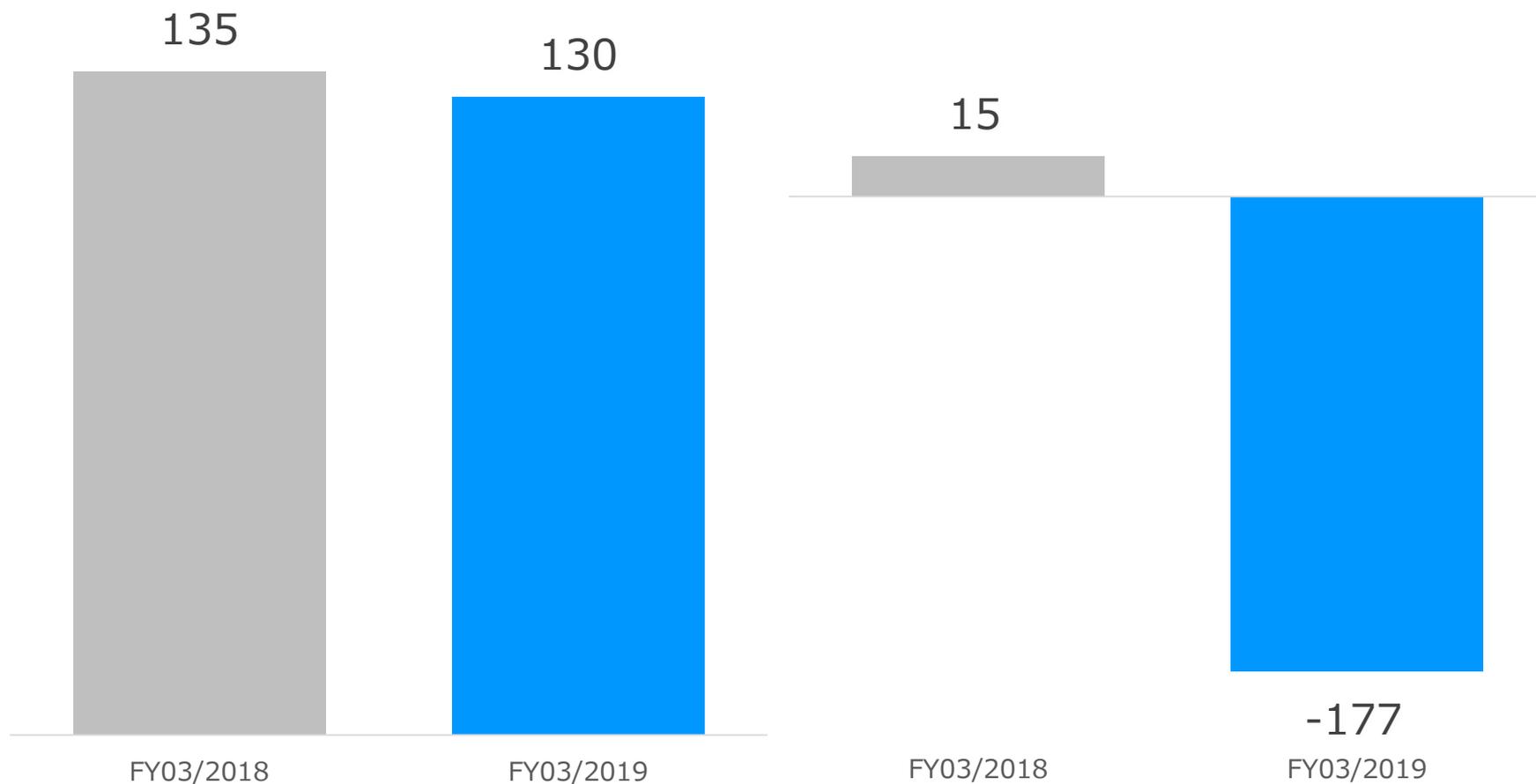
3-3. 東南アジア金融事業

➤ 不良債権の処理による貸倒引当金の繰入が、損失の最大要因

営業収益

営業利益

単位：億円

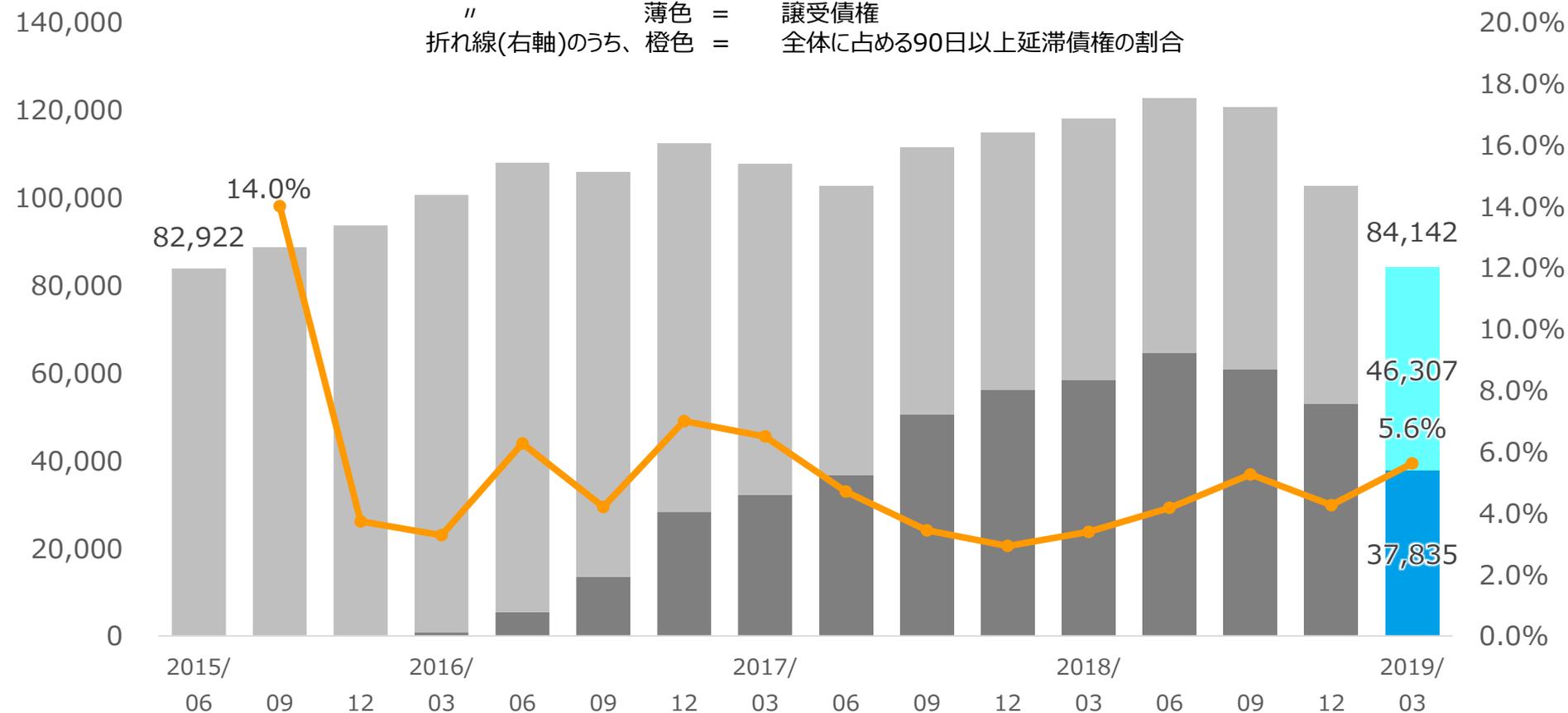


➤ 不良債権の処理により、残高は減少

Jトラスト銀行：貸出資産残高と90日以上延滞債権の推移

単位：億ルピア

棒グラフ(左軸)のうち、濃色 = 自社与信債権
 " 薄色 = 譲受債権
 折れ線(右軸)のうち、オレンジ色 = 全体に占める90日以上延滞債権の割合



※グラフ数値は現地基準
 参考レート：1ルピア=0.0077円（3月末日の決算日レート）

3. セグメント別業績

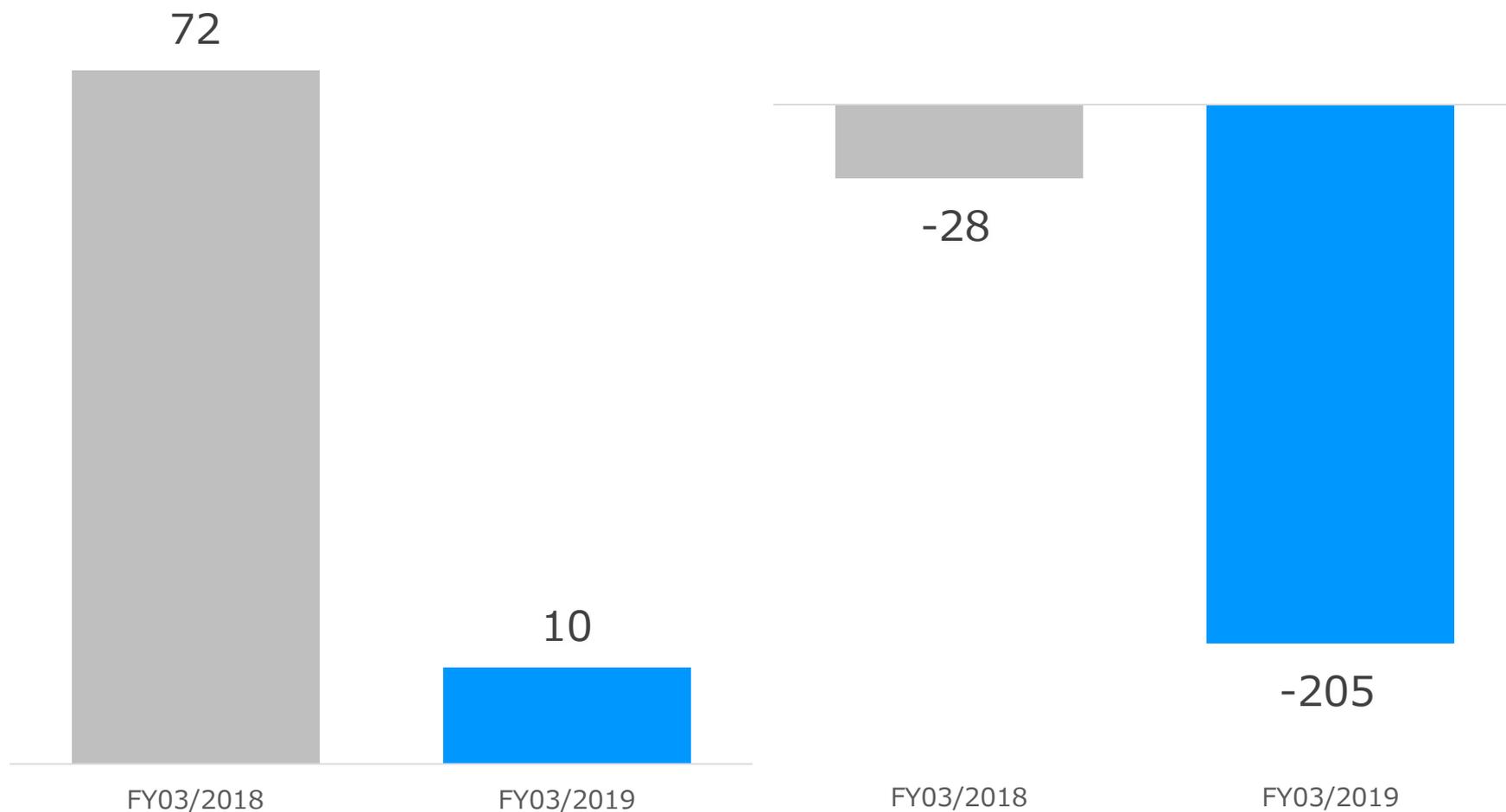
3-4. 投資事業

➤ GL社に対する金銭債権の全額について貸倒引当金を繰入

営業収益

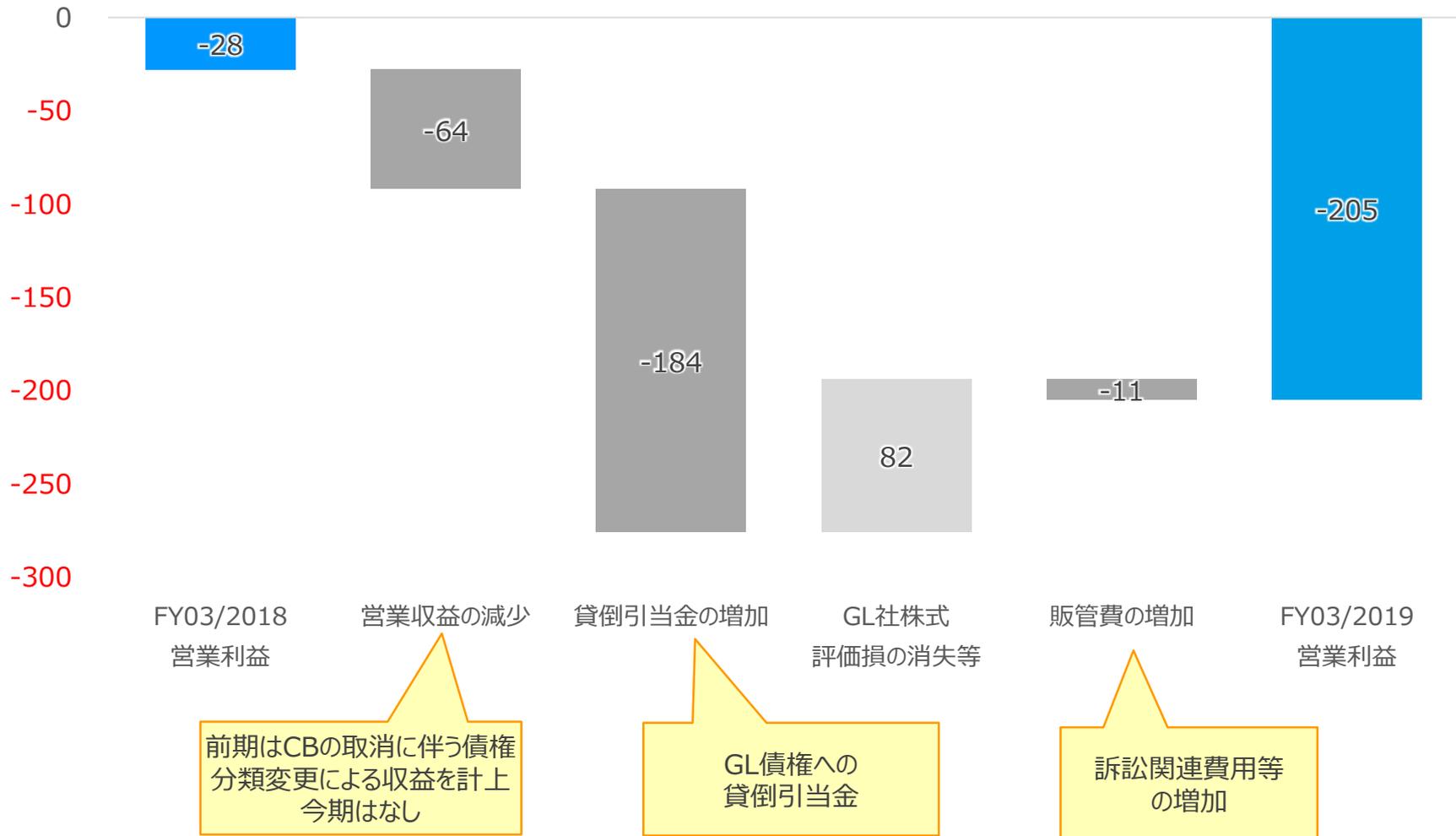
営業利益

単位：億円



➤ Jトラストアジア セグメント利益の変化

単位：億円



3. セグメント別業績

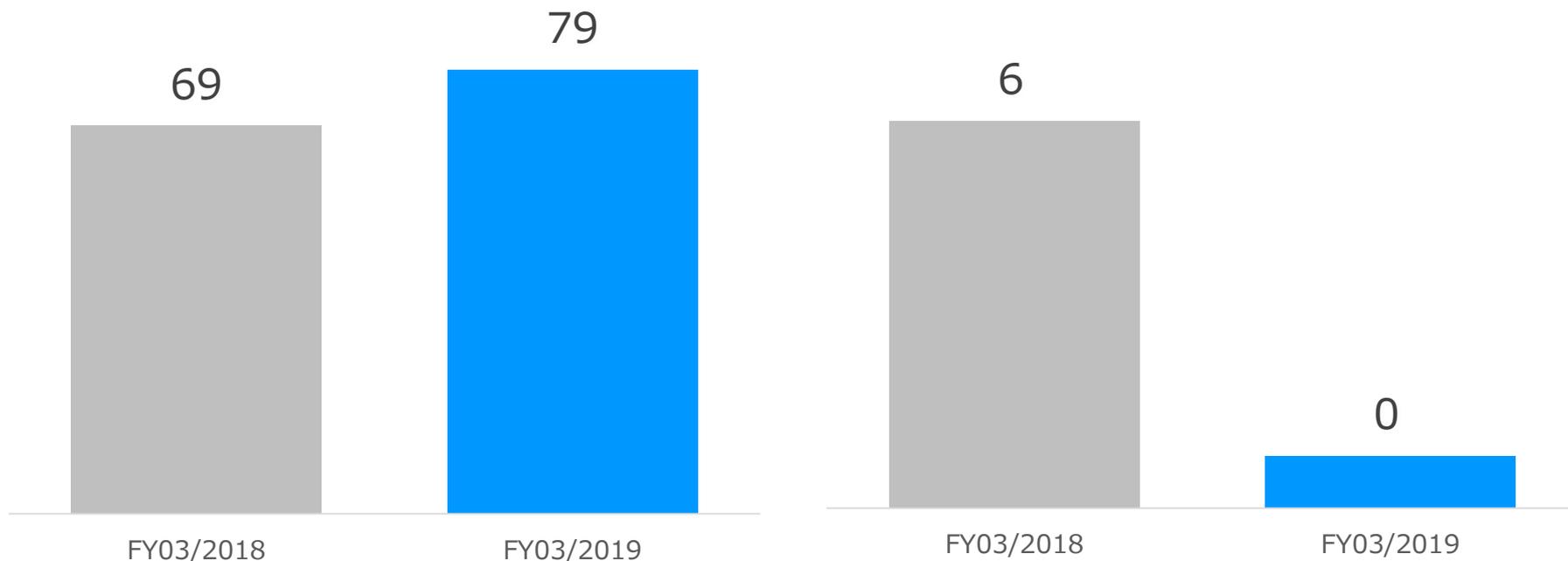
3-5. 非金融事業

➤ 2019年3月期は、事業拡大のためのM&Aを実施

営業収益

営業利益

単位：億円



主な要因	不動産事業 (キーノート)	総合エンター テインメント事業 (キーホルダーグループ)
営業収益	64億円	15億円
営業費用/販管費/その他費用	63億円	15億円
営業利益	1億円	-0億円

非金融事業 = 不動産事業及び総合エンターテインメント事業
 キーホルダーグループ = キーホルダー/キースタジオ/キープロダクション/FAプロジェクト/SKE
 非継続事業を差し引いた継続事業から生じた金額を表示しております。

4. 2019年12月期 連結業績予想

➤ 連結業績予想策定にあたっての前提条件

- 当期は株主総会の承認を前提として決算期の変更を予定しており、2019年4月1日から2019年12月31日迄の9ヵ月間となります。
- 為替レートは、各国進出時から2019年3月末までの平均レートを採用しています。
1 シンガポールドル : 82.63円 1 インドネシアルピア : 0.0084円 1 モンゴルトウグルグ : 0.0473円
1 韓国ウォン : 0.093円 1 USドル : 110.99円
なお、2019年4月末日の各レートは以下の通りとなっています。
1 シンガポールドル : 82.04円 1 インドネシアルピア : 0.0079円 1 モンゴルトウグルグ : 0.0421円
1 韓国ウォン : 0.0966円 1 USドル : 111.85円
- 投資事業における、通常発生する損益以外の影響額は反映しておりません。

➤ セグメント別業績予想

セグメント別 営業収益および営業利益

		FY03/2019 実績	FY12/2019 予想 ※4/1~12/31の9ヵ月間
国内金融事業	営業収益	105億円	69億円
	営業利益	42億円	29億円
韓国及びモンゴル金融事業	営業収益	395億円	289億円
	営業利益	48億円	33億円
東南アジア金融事業	営業収益	130億円	129億円
	営業利益	-177億円	-17億円
投資事業	営業収益	10億円	10億円
	営業利益	-205億円	-6億円
その他/連結調整	営業収益	108億円	144億円
	営業利益	-19億円	-38億円
合計	営業収益	749億円	643億円
	営業利益	-311億円	0億円

質疑応答

ありがとうございました

